

第6回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年10月19日（金）午後1時 ～ 午後4時
場 所	掛川市立中央小学校
出 席	委 員 24人（欠席者6人） 事務局 教育長、教育部長、学校教育課長 企画政策課行革・公共施設マネジメント推進室長 教育政策室長、教育政策室係長、教育政策室指導主事、教育政策室主任

内 容

- 1 開 会
- 2 中央小学校概要説明（中央小学校校長より）
※中央小校長より中央小学校の概要説明
- 3 中央小学校施設見学及び授業参観



【中央小学校長より説明】



【教室見学】



【特別教室見学（音楽室）】

4 中央小学校についての質疑応答

【委員】

- ・中央小学校は非常にきれいで、進んでいていい学校だと思う。一方、城東学園がこのようなのは一体いつなんだろう。大きい学校を全部このようにしていったら、城東ではできないのではないかと。旧掛川の方ばかりが綺麗になっていて、最後に回されてしまう。教育上の差別につながると考える。
- ・中央小学校は、学童が学校にあり良い。中地区は学校が終わって土方まで行く。不便をしているところと、中央小学校みたいにすぐに作ってしまうところがあるということが教育上の差別じゃないかと思う。中央小は素晴らしいし、良いと思う。では城東学園では小学校がいつそういう風になるのか、私としては非常に問題があるんじゃないかと思っている。

【教育長】

- ・本日中央小学校を差別ではなく、こういう学校を創っていきたいという視点で見ている。是非とも色々と御意見をいただきたい。新しい城東学園、新しい校舎を建築していくということとなれば、中央小学校を参考にした上で「こうしたらどうかな」というような前向きな御意見を出していただくと、教育委員会としても皆様にとっても良いことではないかなと思う。是非ともそういった御意見や御感想をください。

【委員】

- ・この学校はいくらぐらいかかっているのか。また、順番としてはどうなっているのか。例えば次は城東になると良いが、いつどこでという目標を持っているのか。そうしていかないと私なんかうらやましいなというだけになる。前向きな意見と言うが、城東学園では体育館玄関の石膏ボードが落ちたり雨漏りしたりすると聞いている。どうして、中央小学校みたいな大きい学校から始めていくということになるのか。嫉みとなるかもしれないが、自然にそう思う。来年からそういう風になるのかというところではないと思う。今の子どもは、全く同

一に恩恵を受けていかないといけないと思う。だから、教育委員会では、そういう面ではある程度差別をしているのではないかという風に私は思う。中央小学校に半分くらいお金をつぎ込み、半分くらいは別の学校につぎ込んだっていいと思う。現在の生徒がかわいそうではないか。そういうことを考えているのか。

【事務局】

・掛川市全体の話は今後考えていかなければならないと思っている。今は、校長先生の説明の後見学した中央小学校のことについて、質問を受けたい。城東学園のことについては、この後の検討委員会の中で検討させていただきたい。先ほど見学しながら、自分の子どもや孫が通っている学校以外の学校を見ることはなかなかないという話を委員とした。本当は全部を一気に建てるのができれば良いが、なかなかそれは難しい中で、掛川で一番新しい中央小学校を見ていただき、「この施設はどうなっているの」とか、「子どもたちの様子は」など、今、聞けるのであれば聞いていただきたい。そしてこの後の検討委員会の中で参考にできたらと思い、質疑応答の時間を取っている。子どもたちや校舎の様子のことについて質問があればありがたい。

【副委員長】

・グラウンドを見たときに草が生えておらず、綺麗に整備されているが、草が生えないようにする特殊な装置か何かあるのか。例えば、薬品がまかれているなど、そういうことがあると生徒に影響があるのではないか。

【校長】

・外構のグラウンド整備を昨年の9月頃から始めた。旧校舎が建っていたところは土壌が悪く、土を出して新しい土をいれた。業者に言わせると、5層の土を入れることによって、水はけが良くなり、一番上にはホコリの飛散防止のグリーンサンドという土を蒔いている。子どもたちが休み時間に一度に遊んで踏みつけていることもあるので、グラウンドの中で草というのが9月から生えていない。したがって、除草剤をまいているということはない。雨が上がれば使用できるグラウンドになっている。使い勝手が良い。また、子どもたちが走るトラックには、ポイントが打ってあり、白線を引きやすい状態となっている。

【委員】

・授業を見させていただき、最新の施設ですごいと思った。先生方は慣れてきたら授業もスムーズにいくと思うが、機械であるので戸惑うこともあるのではないか。先生方の勉強会や使い方講習会みたいなものは、どのようにされてきたのか。

【校長】

・校内でICTに長けた情報担当が、毎週水曜日の校内研修の時間を活用してICT機器の使い方の練習や、授業での生かし方講習などを計画的に取り組んできた。特に年度当初、新しく中央小学校の職員となった方には、放課後の時間などを使って、ICT機器の効率的な使い方などを紹介し、教室で具体的に指導してきた。後は、昨年度からいる教員が補完し合いながら学習機会を設定してきた。この校舎はすごく使い勝手が良く、タブレット等に関しても技術的なものもあまり必要ない。良い具合にどの教員も万遍なく使っている。

【委員】

・子どももすごく楽しそうにしていた。1年生も食いつくように授業を受けていた。5年生・6年生も真剣に前を見ていると感じた。先生方も、使えるようになるまでが大変かなと伺ったがよかった。

【校長】

・地域の方々が見えた参観会で理科の台風の授業を行った。教科書では静止面で台風の渦しか見れないが、その教員がこの1年間の台風の渦がどこまでできてどういう経路を通っていったのか、ずっと動画で流した。子どもたちは「ここでできた」「こっちへ行った」「これが21号だ」と言いながら、10月や12月はどうなるかと想像を膨らましていた。やはり静止画で見るより動画で見るとすごいと思ったと、参加していた地域やお家の方も感じていた。そういうことはICTの力かなと思う。

【委員】

・現役の時にこのような機器があれば、もっと良い教育ができたなと思って参観した。今まで教えてきた子に申し訳ないと感じた。電子黒板なんかを見させていただき、これまで無理とか無駄とかムラなどのいわゆる「ロス」がいっぱいあったと改めて感じた。これからは、学校の教員だけではなく、教育機器が使われている方には実践事例の研究をいっぱいしてい

ただき、「こんなこともできるんだ」ということを、お互いに勉強していれば子どものためになるなどと思う。電子黒板だけでなく、ワーキングスペースなどの空間の活用方法のことも工夫してもらいたい。また、明かり取りのためか、掲示板が少ないと感じた。多すぎるとかえって困ることもあるが、使い勝手が良いスペースかもしれないが、掲示番の活用方法等研究していつてもらいたい。

【校長】

- ・気付かれたかもしれないが、新しい校舎には後ろに黒板がない。旧校舎にはあるのだが新しい校舎には背面黒板をやめて全て子どもの掲示スペースにした。そこにも特徴があると思う。

5 城東学園新たな学園づくり地域検討委員会

(1) 教育長あいさつ

(2) 地域検討委員会委員長挨拶

(3) 報告事項

- ・第5回地域検討委員会について
 - ・第2回地域意見交換会について
- ※事務局より説明

(4) 協議事項

- ・中央小学校を参観して

【委員長】

- ・中央小学校という新しい校舎と人数の多い学校を自分の目で見ていただいた。本日は、それを基にこれからの城東学園の在り方を考えていく趣旨である。昼休みの自然な子どもの姿から5時間目の授業の活動の様子等を見ていただいた。学校への質問はあまりなかったが、先ほどの質疑応答、第5回の発言や本日の参観の感想等を含めて、率直な御意見をいただきました。

【委員】

- ・1学年3クラスあり子どもたちがたくさんいるので、いいなと見ていて思った。昨日陸上競技大会があり、上の娘が6年生なので参観した。大きい学校はテントがたくさんあり、応援している声を聞いていると、やはり人数がたくさんいるのでいいなとすごく思った。その中で色々な競い合いがあって、伸びていると思う。特に中央小の子どもたちは上位にいたと思う。小さい学校だと6年間ずっと同じメンバーであり、子どもたちも固定化されているところがあるので、小中一貫校ができて、3地区が競い合えるというのはいいなと、本日の参観も通じて思った。

【委員】

- ・今日参観して子どもの人数がすごく多くてにぎやかだと感じた。自分の子どもは2年生で子どもの学級は18人しかいない。子どものクラスの中でグループ化してきていると聞いた。このまま同じ子どもたちで固定していくのは怖いと思う。色々な人たちと触れ合う機会がある方が子どもたちも伸びると思う。最先端の学校みたいなところに通えれば、全く違う教育が受けられて伸びていくと思った。

【委員】

- ・施設を見学して一番思ったことは学校の中が明るいこと。昔から学校は暗くて怖いイメージがあった。そのイメージが中央小学校にはなく、私自身も通いたいなと思った。また防災の面でも考えられていてすごいなと思った。人数は多いが先生の目が届いているとも思った。ただ1つ、教科書を読むときなど教室が暗いなと思った。

【委員】

- ・初めて他の学校を見させていただき、さらに新築の新しい学校を見る機会がなかったので貴重な体験をさせていただいた。自分が受けてきた教育の風景とは違っていた。驚きの連続であった。西中学区だと2,000人規模の学校となるので、一緒のところで学ぶ環境は難しいが、城東では600人位の規模でできるという話があると、これだけ素晴らしい施設でもっと違う未来があるのかなと思うと、すごく可能性を感じている。

【委員】

- ・中央小学校は城東学園とだいたい人数が同じ。そうすると中央小学校の建物ぐらいになるのかなというイメージが湧いた。教室などももう少しスペースが広い方が良く思う。参観してみても少し狭いかなと思った。そこを改善して、より良い城東学園の校舎を作るのが理想だと

感じた。

【委員長】

- ・確かに小学校1年生から中学校3年生では体格も異なり、あの教室に中学校3年生が入るのは厳しいか。

【委員】

- ・新しい施設にするにもメリットとデメリットがあり、そのデメリットをなくした城東学園になるように資料を豊富にしておきたい。地域の説明会をできる限りしていただいたが、地域に伝わっていないことが多い。これまで検討委員会では、にわかで考えてきたわけではない。たくさん考えた上でまとめている。例えば、予算の問題など資料に入れてあるのに全く受けとめてくれないことや、「上辺だけだろう」みたいな意見も多いことがつらい。自分も分からないながらに勉強して、子どもたちをどう教育すべきかということを考えてきている。地域の方から直接電話をくださったこともあり、「予算のことを全面的に言ってくれば理解できるのに。」と言ってくくださった方もいた。「掛川市が抱えている予算の問題が根底にあるのではないか。子どもの教育ではなくて、本当はそこではないか。」とおっしゃる方もいる。そうではないということをお願いしたいが、なかなか理解していただけない。そういう財政面の問題もあるが、小中一貫教育が子どもたちの教育の問題を解決していくことを理解していただければ、より良い子どもの教育がもっと浸透していくのではないか。地域性や年代によっても考え方は異なる。お母さん方には「こんな少人数では」という方もいる。私たち大人は少人数で生活してきて、そのつらさは分からない。本当にのびのびやってきた。陸上で1位になった子もいる。「どうしてこうしたいのか」というのがもっと地域の方に分かってもらいたい。小中一貫教育というのが統廃合ではなくて、より良い教育のためにやっていることをもっと浸透させていかなければいけない。地域の方は勝手に進んでいると思っている。もう少し分かりやすく説明しても、分かってくれないが、もっとかみ砕いて浸透しやすい方法はないかなというのが、地域検討委員会に出たの率直な感想である。

【委員長】

- ・予算抜きで語ることはできないと思う。しかし予算だけで検討してきているわけではない。城東学園の可能性、子どもたちの将来を考えて取り組んできている。分かってくいただくことはなかなか大変である。

【委員】

- ・私は昔国鉄職員であった。昔は切符を切っていた。そのとき、乗客はみんな「おはよう」と声を掛けてくれた。今改札は無人になった。社会全体がそういう時代となったからこそ、人間が退廃的になってきているのではないかと思う。タブレットなども確かに良いが、人間性がどのように育てられているかすぐには分からない。大きく成長したとき結果として表れるのではないか。駅など無人になり自動改札で切符が出てくるような仕組みになっているが、駅員とのやり取り等なくなってきた。人間が変わってきているのではないかと私は感じている。学校の予算の問題も話の中で出されたが、学校の時計が昨年度から止まっていた。地域からは「学校の時計が止まっている。時計を直さないなんて学校はおかしいのではないですか」と言ってくる。そういうメインのものは直せず、中央小学校にはお金を使っている。そういう問題が非常におかしいと思う。中小学校の体育館横のトイレはずっと故障中になっている。中央小のような学校を作るのもよいが、トイレを直すなどそういうところにお金が回らないのか不思議である。毎日学校に出入りしているから色々気がつく。学校の周りの樹木も、伸び放題になっている。樹木も信号機にかかって見えなくなることもある。枝を切りそれをどのように始末したら良いか。草刈りも含めて私もできる限り手伝うが一人ではできない。そういう実態がある。学校の先生はだいたい19時から20時には帰る。施設一体型の学校ができたなら、もっと早く終わらないといけない。しかも小中一貫教育のことをしているから、その先生が教育の勉強をしており、盛んにどこかの小学校へ集まっているので、ものすごく忙しくなる。そういった出張ばかりやっている中、今の生徒はそれで良いのか。新しい教育を受けたいという時、盛んにやらされているのは正しいのか。もう一度検証する必要があるのではないか。

【委員長】

- ・よく学校に入られていて、今回色々な観点から御意見を出してくださいと言うことで様々な課題があるということが分かりました。中央小学校も1階は南側の道から見えてしまうことなど、課題はある。教育に課題がないということはない。城東学園についても課題を踏まえ

ながらどうしていくかを考えていきたい。

【委員】

- ・新しい校舎に感動した。子どもたちも明るく元気である。これだけ大人数でもまとまっているところはまとまっている。あれだけ人数がいて、靴箱がたくさんある中、靴が同じようにみんな綺麗に並んでいたことがすごいなと思った。また、職員室の壁がガラス張りになっていて、全部見えると説明を受けた。このような時代なので、来校者や侵入者など防犯の面からも全部見えていることはいいなと思った。新しい城東学園もそういう風になったらいい。防犯も含めた安全は、一番子どもたちにとっても大切だと感じた。意見交換会について、参加人数が少ないということを感じており、周りで行けるお母さん方に声を掛けることが精一杯であったが、もっともって来ていただき、話を聞いていただいた上での意見交換会でないとメリット等の話が伝わっていかない。自分も会に参加してもらうようにしていかないといけないと思った

【委員】

- ・子どもたちがとても明るくしていることを第一に思った。色々な機器が入りハイテクになっていることにも驚いたが、この前の台風で停電になり、電気が使えない中でどれだけやれることがあるのか、これから先、ものが新しくなる中ですごく必要なことだと思う。先を見る力と通常時の対処の仕方は、停電を体験して身に付けていかなければいけないと思った。参観の中、1年生の国語で教科書が前面に大きく映し出されていた。通常、子どもたちは、「○ページ開いて」と言われると、教科書を見るので下を向く。中央小の子どもたちは画面を見るので前を向く。子どもたちの様子が一度に見られることは良い。下を見ているから考えているとは限らない。子どもの様子が分かることは良いことだと思う。また、少人数学級があるが、人数がある程度いれば算数の問題でクラスを分けて、難しいと悩んでいるクラスや、どんどん進めていきたいと考えているクラス等に分けて行うこともできるという話を聞いた。配慮して学習していけるということは、人数が多くなることで行えるメリットであるかと思う。人数が少ないから目が行き届いているのかということ、そうとは言い切れない。にぎやか手挙げて目立つ子と、ずっと静かにしている子がいる。先生はよく見ているがその中で振り落とされてしまっている子もいる。支援の手が届かない子もいる。大人数になり、多くの目で子どもを見れる、そういったメリットもあると思った。

【委員】

- ・子どもたちは楽しそうに前を向いて授業を受けていたのではないかと思う。建物に関しては、消火器1つでも壁に埋め込まれていて、飛び出しておらず子どもたちが怪我しにくい、そういうことも考えられて作られていると思った。親の目線からは、廊下の窓ガラスの高さがちょうど親から見やすい高さとなっており、授業の内容が良く見える。地域意見交換会に参加し、地域により温度差があるというのもわかるが、マイナス面を考える方が多く、プラスに考える方が少ないと思った。プラス面を地域の方に伝えていけたらと感じた。自分は伝えなければいけない立場であると思うが、自分ではなかなかできないことを感じている。色々と考えて進めていけたらと思っている。

【委員】

- ・建物については校舎が明るく、廊下や階段のスペースが広くて余裕がある。できる事ならこういった校舎ができると思う。授業では、先生が熱心に取り組み、子どもたちも真剣に受けていると思った。これは土方・佐東・中小学校でも一緒ではないかと思う。学校が1つになるということはスペース的にかなり広いスペースがないといけないと思うので、検討してもらいたい。

【委員】

- ・中央小学校は、近代的で木材をたくさん使っていて良い学校だと思った。孫が来年小学校へ上がるので、こんな素敵な学校だったらいいなと思った。土方小学校は大変古く、近所の方も何人入学するのかと話していた。廃品回収にしても何件分集めるのかとか、軽トラックがないと廃品回収を集めるのも大変という話を聞き、児童数が少ないと大変になると予想している。会社へ検討委員会の内容を相談したときに、社員の中で家を買う方と、車を買う方が増えていると聞いた。来年10月に消費税が10%上がることから、アパートから出て家を建てている。どうしてそこに建てたのかと聞くと、返答は「学校のそばだから」「商業施設が充実している」という回答である。この地区は商業施設が充実しておらず、学校も古いとなると、魅力があまりないため、若い人たちは中央小学校のような学校の近くに住んでしまうの

かなと感じる。検討委員会で決まったら、城東地区はこんな風に生まれ変わるんだよ、というのを早めに皆さんへお知らせして、これ以上減らない対策を取っていただきたい。

【委員】

- ・現在の小学校の施設のことについて御心配をいただいた。委員長から校舎の建築年数について説明があったが、現在色々なところではころびが出てきている。台風の時にも更衣室の屋根がめくれあがった。運動場のフェンスも倒れた。何かあるときには修繕がかかってくるので、思い切って直そうと考えていても、次の修繕が入ってくる。計画的に進めていかなければならないと思っているけれども難しい。中央小学校の見学に参加して、とても開放的に感じた。教育目標が「夢抱いて」ということだが、夢を持っている子どもたちが、自分の思いを清々と出していけるところを校舎が応援してくれている、そういうイメージを持った。こういう校舎により子どもたちが自分の思いを存分に出したり、色々なことを考えて友達と話し合ったりとか、創り上げたりとか、そういうことを支えてくれている。こういう校舎がいいなと感じた。地域の方が学校に足しげく通ってくれたり、一緒に考えてくれたりすることが私は大事だと思う。地域のコーディネーターやボランティアの部屋があって、そこで仕事をしてくださる、話し合いができる、そういうところがあると子どもにとって良い。城東学園でも目指す姿が「城東を愛し」ということで、子どもたちが城東を身近に感じてくれて、地域の方と顔を合わせることができるといいなと思う。

【委員】

- ・教育長の挨拶の中の言葉で「環境が変わると子どもも変わる」という話があったが、中央小学校は何が変わったのかと質問したかった。設備的に良くなってきているということはある。職員室は駐車場の方から来る人がすぐ分かるという話しであったので、休憩時間に実際に駐車場まで行き歩いて戻ってきた。やはり対応がすごくよかった。これは非常に重要なことであると思った。子どもたちが学校の外まで出て行く姿が見えるという話しであったが本当ですごくいいことであると思った。

【委員】

- ・施設については、校長の立場で言うと、今の子どもたちではなく将来を生きる子どもたちのことを考えて整備できるかということを考える。子どもたちが伸びていくためには、教師の力がなくてはならない。今必要なのは教師のチーム力や組織力である。また、これだけITもあり発達しているので、色々なことが求められる。本日施設見学をする中で、いっぱい教室があって、いっぱい知っている先生がいる。その中で「この先生は情報がすごく得意だったよな」とか、「この先生は外国語が得意だね」等、バラエティに富んでおり質が高い。この先生方がチームを組んで何かに取り組んでいくというときに、学校の力はすごく上がると思う。それは子どもへの素晴らしい影響に変わる。そういった面で子どもたちは恵まれている。学年に4人ぐらいの教師がいると、お互いのことを高め合って話をする時間は簡単にもてるので、集まって話し合うと教師の心の中のゆとりとかが安定したものになっていく。単学級だと教師が1人で抱え込むことが多い。そこはチームの中で話し合うことがやはり必要であり良い影響を与えることとなる。1つの学校の規模が大きくなるということは、そういった面で意味のあることである。城東中学校で本日合唱コンクールがあった。小学校3校がそのコンクールに参加させてもらった。みんなで会えたことはいいと思った。休憩時間に、中学校の1～3年生と小学生3～5年生が自然と触れ合っていた。体育館の中でにぎやかにしていた。こういった姿が日常の中でできたらと思う。小学生から見ると色々なお兄さんやお姉さんと接することになるので、子どもの感性を高めることにつながるので必要だと思う。

【委員】

- ・気がついたことだが、新しく建てば良い施設になる。悪くなるはずがない。職員室が外からも中からも見えることはすごく良い。しかし、教室はどうか。教室のスペースが狭いということと、明るくなるのは良いが、授業を行っている子どもが廊下を通る人たちを全部見えるということはどうか。子どもたちが授業をしているときに廊下に気を取られてしまう。保護者が廊下からは見えるが中からはあまり見えない工夫があると良いと思う。気が散ることはなくなるのではないか。

【委員】

- ・施設面で言えば、トイレで男子の個室が1つしかない。大小どちらでもということを考えていくと、男子でも個室の数をもう少し増やすとか、全部個室にするとかということも将来的には必要になるのではないか。家庭でも男性は座ってしなさいという時代である。また、普

通教室が全て南側に綺麗に配置され2学年ずつつながっている。このわかりやすさは子どもたちにとってよい。北に全部特別教室が配置されている。こういうことも参考になるのかと思う。ICTの話が出ていたが、昔はITであった。いつ頃からCが入った。Cはコミュニケーションということで、コミュニケーションを図るための道具である。今日の授業では提示資料が多く、いわゆるITの使い方であった。今、色々な学校で研究が進んでいて、タブレットを使うと子ども同士がタブレットを囲んでコミュニケーションを図っていたり、提示した資料をみんなで見合う、そんな使い方もある。今日見た授業のICT機器の使い方だけではないということで、もう少しコミュニケーションができるツールになっているということを皆さんに御理解いただきたい。土方小は掛川市で一番遅く停電から復旧したが、その間発電機を使った。4日間でガソリンを50Lくらい使った。少なくとも職員室の業務だけは動かさせようと、印刷機やパソコンなど使った。しかし電話だけはコンセントからの供給ではないため復旧できなかった。連絡が必要なときは校長の携帯を貸して使用した。将来的には自家発電装置も学校には必要だと思った。太陽光発電では賄いきれない。近未来の学校ということで、自家発電も必要になってくるということを考えて。また、施設面でフラット化が今後必要である。段がないというのはすごくありがたい。ガラス張りについての意見も出ていた。私からすると、子どもの集中力というのもあると思う。他の学校では、真ん中に何も無いというオープンスペースの学校もある。壁がないのである。防犯のことを考えると、大阪で事件があったが子どもたちからすると周りが分からないということは良くない。全て分かって見えている状態が望ましい。小中一貫校建設の際には、この検討委員会でどのようにイメージしたことを、どう伝えていくか。1つは地域意見交換会に来てと言っても集まらないので、逆に集まっているところへ出向いていく。例えばPTA総会や保護者が多く集まっているところ、その機会を捉えて積極的に話していくことが必要となると思う。もう1つは、この検討委員会の文章化はされているが、イメージ図がない。空から眺めてこのようになるというものをカラー版で作成し分かってもらいやすくするという方法もあるのかと思う。

【委員】

- ・教室を見てにぎやかなのを感じた。ICT化が進むことによって、先生方が余裕を持って取り組むことができるのではないかと。また、城東学園には640人くらい子どもがいる。平成7年の時が1,000人ちょっといたが、23年経って640人くらいになっている。今学園化構想の中で600人くらいで良いのではないかと知っているが、この傾向で行くと、10年経つと、他の学校と合併しないとこの地域はやっていけないような感じになるのではないかと心配している。

【委員】

- ・教員を30年以上しているが新しい学校に勤務したことはない。中央小学校に勤務されている先生はうらやましい。城東の子どもたちも綺麗な校舎で学ばせてあげたい。城東中学校の南側には山が連なっている。前が山になっている。窓から見たときに拓けたようになると良い。そうなれば子どもたちの気持ちも変わるかなと思う。「環境が変わると」という話があったが、窓から見える景色も環境かなと思う。また城東中学校の合唱コンクールについて、中学3年生の大人の声に近くより合唱らしくなる歌声を小学生が聞くと、「中3になったら、あんな風になるんだ」とか、もし体育大会と一緒にやると「中学になったらあんなに足が速くなるんだ」など、自分の将来像が見えてくる。こんな風になるように自分たちも頑張らないと、というイメージを持てる。そのようなことを本日の合唱を見ていて思った。小学生の純粋さ、ひたむきに歌っている姿に中学生が色々なことを感じるのかなと思った。そういう小学生の姿を見て、自分を振り返り、それを取り入れながらまた自分の生活に生かしていく、お互いに切磋琢磨することができてより良い教育がされていくのかなと思った。

【委員】

- ・佐東小学校の良さを孫から感じている。ほのぼのとした良さ、郷土愛、縦割り活動、学年間を感じさせない様々な良さがある。しかし小規模での課題もある。今日参観して改めて切磋琢磨できる、練り合いというかコミュニケーションというか、物理的に本当にできるのかということを感じた。孫も佐東の野球をやっているが今人数が少なくなって土方と一緒にやっているが、遊びも含めて土方の子とすごく交流している。そのことがプラスになったという感じがする。日頃の学園化構想など色々な交流をしているので、他の小学校の子どもと慣れてきたということもある。付き合っていくということが自然な形で良い形になっている。これから佐東小の子には、小中一貫で揉まれる中、さらにより多く子どもたちと接して、人

の良さや違いを感じて、その上で自分の良さを認めていくことに取り組み、いじめなども減らしていく、そのような良い方向へと向かうのではないかと思う。新たな学園づくりの動きについて、地域の方では参加者が少なく寂しく思う。佐東の広報誌にも書こうと考えているが、書き方で悩むところがある。しかし、皆さんに知ってもらうことは必要ではないかと思っている。

【委員】

- ・あこがれの存在が身近に見えるということで、小学校の横のつながり、そして小中の縦のつながりもこれから考えていく。また、施設は、全部電気ということになると、この前の台風の時のように、電気がないと何もできなくなるので、新しいものの良さと古いものの良さを大切にしたい。中央小学校を見て、全部蛇口がひねる形になっているのでちょっと安心した。地域にどのように取り組みを知らせていくかという課題をクリアしながらより良いものにしていったらいいなと思う。

【副委員長】

- ・中央小学校を見学し、学校が予算的にもかなりかかり、普通では考えられないくらいの予算をかけている。この学校はモデル校というのか、本当に素晴らしく明るくてよい。施設がいろいろあり、音楽室は2つあってグランドピアノも2つ置いてある。予算的にみても考えられないくらいである。グラウンドも草1つ生えておらず整備されている。小中一貫教育にして学校が統廃合になれば、こういう素晴らしい学校になるということを見せられたという感じである。財政の効率化が本当に一貫教育という前に統廃合があって、一貫校というものに利用されているという思いがなかなかぬぐいきれない。学校の規模が大きくなるということは分かるが、中央小学校の場合、人口の規模が大きくてよいが、城東学園のようになると、地域が広く学校の範囲が大きくなり、お互いに自宅の場所が離れてしまう。例えば放課後遊びに行くことが行けなくなる。また、まちづくりの観点から言っても、学校がなくなるということはコミュニティが消えてしまうということに思えてならない。広がりすぎた校区は生活圏ともかけ離れてしまう。これは子どもにとって良い影響がないのではないか。子どもは地域の人に見守られて育つという観点から地域と離れてしまうということが懸念される。本日見た学校は確かに素晴らしいし、この学校がモデルとして紹介されたが、本当に全てこのような学校になっていくのか考えられないと思う。

【委員】

- ・5年後に認定こども園になるということで、今、色々な園を視察させていただいている。本日の中央小もICT化を取り入れ、新しい校舎になり興味を持って見た。広い廊下があり、その廊下から教室の子どもたちがよく見え、開かれて明るい校舎だと感じた。綺麗だなと思って歩いていると急に暗くなり、「これは旧校舎なんだ」と対照的に見ることもでき、明るい中で授業をしている子どもたちはいいよね、でも来年は新しい校舎に行けるという期待を持ちながら授業を受けているのかなということも少し感じた。ただ、黒板に映し出されていた字が割と小さく見づらく感じた。目の悪い子にとって、教科書はもっているが見えるのかな、と思った。また、音符などが見えにくかったところもあったので、そのあたりは改善が必要ではないか。子どもたちはすごく明るく元気で挨拶もでき、それだけで幸せな気持ちになる。外で子どもたちが遊んでいる姿を見ると、グラウンドの表面がグリーンサンドで土埃が飛びにくくなっており、今度の認定こども園でも同じ土を使ってくれたら良いなと思ってみたり、子どもたちが運動場いっぱい広がっている中で、先生も子どもたちがどこにいるか把握していてすごく良いなと思った。ただ「外に遊んでおいで、体を動かしておいで。」と言うだけでなく、その中で先生たちがしっかり子どもを見ている姿が良かったと思った。地域の説明会では、地域の方が少なく関係者の方が多い状況であったので、もっとみんなに知ってほしいな、行きたいなと思えるような会にするにはどうしたらよいのかということも感じた。

【委員長】

- ・皆さんの本音の部分の発言を聞かせていただいた。また、様々な立場から貴重な意見をいただいた。前回施設一体型と分離型でお一人は分離型の方かと感じたが、他の皆さんは前回と同じと受け止めたがよいか。

【委員】

- ・良い

【委員長】

- ・前回私は意見を言っていなかったので、ここで皆さんの話を聞きながら私の意見を言わせて

いただきたい。

- 本日参観した中央小学校のいいところということで、「新校舎」「複数学級」「ICT教育」「情報機器」。子どもたちがあの環境の中で新しいコミュニケーションに取り組んでいくということが良い。「英語教育」では、色々な場所に英語の表記があったと思う。子どもたちは「明るい」「活力」。なんと言っても子どもたちがとても明るくて、活力があった。皆さんも感じたかと思う。少し広げて、中央小学区でいいなと思うところは、「市役所」が近くにある。「高校」も2つある。「JR駅」もある。「病院」もある。「循環バス」も走っている。「商業施設」もいっぱいある。近くへ食べに行くことやスーパーもある。そう見ると、やっぱりいいなと思った。
- 続けて、城東学園の可能性であるが、1つは「学園化」そして「幼小中地」。この地は地域。検討委員にも地域の方が揃い、可能性は広がる。初め学校は子どもが学ぶ場と思った。しかし違う。学校は子どもと先生が学ぶ場。さらに学校は地域の色々な人が行き交う場である。これからの学校は、小学校や中学校だけではとどまらない。地域が入ってくる。そういう意味では城東学園ならできると思う。そして今取り組んでいる小中一貫教育の指導。これは、中央小や第二小、曾我小、そして西中、全部入ると1,920人となり、掛西学園では残念ながらできない。しかし、城東学園はできる。これは大きい。それに関わって一貫指導になっていくと授業改善ができる。先生方の交流もある。現在小学校では1学年の先生が1人で全部の教科を受けもつ。これが2人3人になったら、「私が算数をもちます」「私が社会をもちます」という形になっていく。さらに中学校の英語の先生や美術の先生が小学校に入っていくことによって、授業が改善されていく。そうなると、学習意欲が向上し、間違いなく城東学園の子どもたちの学力が向上すると思う。中央小学校は全国学力・学習状況調査において全国平均より上といていた。城東学園は絶対に学力が上がると信じている。そして安心安全のこと。エレベーターがあったり、フラット化があったりというような校舎をいろいろ考えて、安心安全な学校を作っていく。そういうことを通して、先生方が城東学園に来たいということとなり授業力が向上していく。また、働き方改革の中で、当初は忙しいかもしれないが、忙しさは減っていくと思う。城東学園に行きたいなと思う先生が増える可能性があるのではと考えた。将来を考えたときに、やっぱり一体型だと思う。皆さんの意見を参考にしながら賛成したい。
- この会は、今の子どもたちのことはもちろん、これから先のことを考え、今はいいな中央小と思うかもしれない。しかしこれから何年かしたら、城東学園について胸を張れるような、そういうような学校に、皆さんの英知を結集して作って行けたらと思う。

【委員】

- 委員長のいっていることはよく分かる。でも、その形に行くまでに、教員はよいのですか。朝7時頃出てきて、夜8時頃まで働いていていいんでしょうか。先生方が一生懸命ご苦労されているし、その場だけを見てるといいと思う。でも、先生がうちへ帰ったり遅くまでやっていたり、休みの日も出てきてやっているんじゃないかという気がする。それでいいのか。私は疑問を持つ。それは教育委員会も遅くまでやっている。だけどそれでいいのか。

【委員長】

- 先生たちは、少しでもいい授業をやって、子どもたちに「できた」とか「分かった」ということを味わわせていきたいという、そういう気持ちで取り組んでいると思う。現実問題として働き方改革という観点で見たとき、どうなのかとした時に課題は山積だと思う。それをこの場だけで解決するというのではない。

【委員】

- 今、先生たちは、朝7時頃、早い人は6時30分頃から来て仕事をする。夜7時頃通っても明かりはついている。先生がそういう働き方をしている、子どもたちとか保護者が見ている、それでいいのか。将来はどうなのか。一体型になるまでは、どれくらいかかるのか。来年からなら先生や住民も我慢するけど、これは当てにならないのではないのか。そういう保障はあるのか。

【委員長】

- 来年校舎を建て替えるというのは無理。ただ、順序を踏んでいく。この会も昨年度12月からスタートして、少しずつ、間を置きながら地域の皆さんにも関わっていただき、少し時間をおいて考えていきましょう、という形で今日まで来たところである。ここで一定の方向性を出し、次は城東学園の建設委員会等の新たな組織ができて、何年かかけて、皆さんの色々な

御意見を聞き、新しい形を作っていくということになるとすると、来年というわけにはいかない。でも、できるだけ早くしたい。

【委員】

- ・保育園も5年はかかると言っている。保育園でも5年はかかると言うことは、この構想も7年～8年はかかると言うことは想像できる。構想は構想で悪くはない。しかし、今の先生方が苦勞するばかりである。

【委員長】

- ・この会としては、将来子どもたちのため、そして先生たちにとってもこの改革はプラスに働くのではないかとということで、進めていきたいと思いますというように考えていた。先生たちにとっても、機能性のある学校になってほしいなと思っている。中央小学校のいいな、というところはあがるが、城東学園でしかできないことがきっとあると思う。

【委員】

- ・小学校の先生方の中で、掛川の北部から来る人が5時30分から6時に来ると言うことは、家を何時に出ていると思うか。今、そういうことで苦勞しているのではないか。女性の先生が大半だけれど、朝の7時頃には来ている。それで夜7時頃まで働いている。できるだけ子どもたちに教えたいという良い先生ばかりである。そういうことで良いのかどうか。こういうことをやる前に何かがあるのではないか。

【事務局】

- ・委員のおっしゃるとおり、6時30分頃に学校へ来て、夜8時頃帰る先生はたくさんいて、それこそ働き方改革と言うことで進めなければいけない。勤務時間を管理するシステムを導入したり、行事をできるだけ少なくしたりということで進めている。各学校にも「早く帰れるようにしてください」とお願いをしている。その辺りの実情や現状をよく知っている委員だから言っただけの御意見。教員は、子どもたちの授業のことをすることに対して負担感をあまり感じない。先ほど委員長からの話の中で、子どもたちが「分かった」「できた」とか「なるほど」と言ってくれると、それは教師本来のやるべき仕事であって、やり甲斐を感じている。そのことで教員になった人が多い。それ以外の仕事、例えばアンケートに答えたり、施設の修理を教員なのにしたり等、そういう負担感があると、教員にとって大変だという気持ちが強くなる。委員が学校のお手伝いをしてくれるということは本当にありがたいと思っている。働き方改革でできるだけ早く帰ることを進めているわけであるが、昨年度辺りから本格的に取り組み始めているところであり、徐々に改善をしていくことであり、この城東学園ということは、1つの方策になると考えているのでお願いしたい。

【委員】

- ・授業中騒がしくなると思い、休みの日に草刈りに行く。先生たちは休みの日でも出てきている。その中、教育委員会は何をしているんだと思う。この働き方改革を進めている中で、教育委員会が色々なことをどんどん進めてやっている。これで良いのかと思う。パソコンなど使って少しでも楽にできるようお願いしたい。

【事務局】

- ・これからも働き方改革を続けていきたいと思う。

【委員長】

- ・本日、施設一体型の方角で決定していきたいと思うがよろしいか。

【委員】

- ・よい。

6 連絡事項

- ・今後の予定について

(1) 第7回地域検討委員会

平成30年12月13日（木）

19:00～ 大東北公民館

7 閉 会